

| | | | | | | | | | | | |
|---|--|-----------|----|------|------|---------------------|----|-----|---|--------------|----------|
| 授業科目 | 高齢者臨床心理演習 | | | | | 実務家教員担当科目 | ○ | | | | |
| 単位 | 1 | 履修 | 選択 | 開講年次 | 3 | 開講時期 | 後期 | | | | |
| 担当教員 | 杉本 有紗 | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>実務家教員として、本演習では高齢者臨床における心理アセスメント及び心理療法について解説する。</p> <p>高齢期は身体的にも、社会的にも、心理的にも新たな課題に直面する時期である。高齢期に発症しやすいとされる精神疾患に認知症がある。高齢者の QOL を支えていくためには、心理面の理解と支えを欠かすことはできない。高齢者臨床心理演習では、高齢者施設における施設入所高齢者、認知症高齢者への心理臨床業務に携わった実務家教員として、高齢者臨床における心理アセスメントと心理療法について解説し、ロールプレイやグループディスカッションを通して具体的な支援技法への理解を深める。</p> | | | | | | | | | | |
| 授業形態 | 演習 | | | | 授業方法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | | | | | | | | | |
| 標準的レベル | <p>1. 高齢者、認知症高齢者についての基本的知識を有し、それを基礎として高齢者、認知症高齢者を対象とする心理アセスメント、心理療法の基本的な実施方法を身につけている。</p> <p>2. 被検査者、被援助者に配慮した心理アセスメント、心理療法の計画、実施、報告のあり方を検討することができる。</p> <p>3. 高齢者、認知症高齢者への心理アセスメント、心理療法を臨床場面で用いる際の意義と課題を考え、福祉専門職の視点からの利用のあり方を検討することができる。</p> | | | | | | | | | | |
| 理想的レベル | <p>1. 高齢者、認知症高齢者についての基本的知識を有し、それを基礎として高齢者、認知症高齢者を対象とする心理アセスメント、心理療法のより円滑な実施方法を身につけている。</p> <p>2. 高齢者、認知症高齢者、またその家族、関係する専門職に配慮した心理アセスメント、心理療法の計画、実施、報告のあり方を検討することができる。</p> <p>3. 高齢者、認知症高齢者への心理アセスメント、心理療法を臨床場面で用いる際の意義と課題を考え、福祉専門職の視点からの円滑な利用のあり方を検討することができる。</p> | | | | | | | | | | |
| 評価方法・評価割合 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 | | 評価割合 (数値) | | | | 備考 | | | | | |
| 試験 | | | | | | | | | | | |
| 小テスト | | | | | | | | | | | |
| レポート | | 60% | | | | 小レポート、最終レポート | | | | | |
| 発表 (口頭、プレゼンテーション) | | | | | | | | | | | |
| レポート外の提出物 | | | | | | | | | | | |
| その他 | | 40% | | | | 授業中の発言や質問、行動 | | | | | |
| カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング | | | | | | | | | | | |
| DP1 | - | DP2 | ○ | DP3 | ○ | DP4 | - | DP5 | ○ | ナンバリング | WE31405J |
| 学習課題 (予習・復習) | | | | | | | | | | 1回の学習目安 (時間) | |
| <p>授業で示された資料を見直し、不明な点は整理し、必要に応じて図書やインターネットを用いて調べる。</p> <p>演習での体験を振り返り、文章にまとめる。授業で出された課題に取り組む。</p> | | | | | | | | | | 1 | |

| 授業計画 | |
|------|---|
| 第1回 | オリエンテーション 高齢期という発達段階の特徴、身体・心理・社会的特徴について解説する。 |
| 第2回 | 高齢者の心理 高齢期に発生する心理・社会的問題について解説する。 |
| 第3回 | 認知症の理解 認知症の定義、心理・社会的特徴について解説する。 |
| 第4回 | 認知症高齢者の心理 認知機能の低下に伴って発生する心理・社会的問題について解説する。 |
| 第5回 | 高齢者の心理アセスメント① スクリーニング検査（HDS-R）について解説し、検査者役と被検査者役に分かれて心理アセスメントのロールプレイを実施する。 |
| 第6回 | 高齢者の心理アセスメント② スクリーニング検査（MMSE）、その他の心理社会的評価尺度について解説し、検査者役と被検査者役に分かれて心理アセスメントのロールプレイを実施する。 |
| 第7回 | 高齢者の心理アセスメント③ 基本的な支援態度（傾聴）についてロールプレイを用いて理解を促し、高齢者臨床における適切なコミュニケーションについてグループ討議を行う。 心理アセスメントの結果のフィードバックについてディスカッションを行う。 |
| 第8回 | 高齢者の心理臨床① 回想法について解説する。 回想法の事例（1対1）を講読し、高齢者臨床における適切なコミュニケーションについてグループ討議を行う。 |
| 第9回 | 高齢者の心理臨床② 回想法の事例（グループ）を講読し、高齢者臨床における適切なコミュニケーションについてグループ討議を行う。 |
| 第10回 | 高齢者の心理療法③ 回想法の実際についてロールプレイを用いて理解を促し、介入前後の心理アセスメントの手続きを解説する。 その後、回想法グループの運営計画についてグループ討議を行う。 |
| 第11回 | 高齢者の心理療法④ 援助者と被援助者に分かれ、援助者は集団心理療法（回想法）を計画・運営し、一連の援助手続きを実行する。 援助場面における成果と課題についてグループ討議を行う。 |
| 第12回 | 高齢者の心理療法⑤ 援助者と被援助者を入れ替え、前回の授業の反省を踏まえ、援助者は集団心理療法（回想法）を計画・運営し、一連の援助手続きを実行する。 援助場面における成果と課題についてグループ討議を行う。 |
| 第13回 | 高齢者の心理療法⑥ 心理劇について解説する。 |

| | |
|-----------------------|--|
| | 心理劇の事例（認知症高齢者グループ）を講読し、高齢者臨床における適切なコミュニケーションについてグループ討議を行う。 |
| 第 14 回 | <p>高齢者の心理療法⑦</p> <p>心理劇の事例（重度認知症高齢者グループ）を講読し、高齢者臨床における適切なコミュニケーションについてグループ討議を行う。</p> |
| 第 15 回 | <p>まとめ</p> <p>これまでの演習での体験を踏まえ、高齢者を対象とする心理アセスメント、心理療法を臨床場面で用いる際の意義と課題を考え、福祉専門職の視点からの利用のあり方をグループ討議する。</p> |
| テキスト | とくになし。必要に応じてプリントを配布する。 |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | <p>黒川由紀子・斉藤正彦・松田修著『老年臨床心理学』有斐閣、2005</p> <p>黒川由紀子著『回想法』誠信書房、2005</p> <p>回想法・ライフレビュー研究会編『回想法ハンドブック』中央法規、2001</p> <p>中島健一編『高齢者のこころのケア』小林出版、1999</p> <p>Naomi Feil 著、藤沢嘉勝監訳『バリテーション』筒井書房、2001</p> <p>中島健一著・成瀬悟策監修『痴呆性高齢者の動作法』中央法規、2001</p> <p>中島健一編『認知症高齢者の心理劇「感ドラマ」動作理論に基づく支援』ミネルヴァ書房、2015</p> |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 小レポートを返却する。 |
| 学生へのメッセージ・コメント | <p>生涯発達における高齢期の位置づけ及び高齢者の心理についての基礎知識を身に付けることのできる「発達心理学Ⅱ」、心理学的支援に関する基礎理論を学ぶことのできる「臨床心理学概論」や、心理アセスメントの基礎を学ぶことのできる「発達アセスメント演習」の単位を習得していると、本演習の内容がより理解しやすいでしょう。</p> <p>上記科目を未履修であっても受講できますが、可能であれば先に履修されることを勧めます。</p> <p>ボランティアや実習での出会いや学びを整理しておくことが重要です。本授業では、ロールプレイやグループ討議を中心に授業を進めていくため、積極的な授業参加姿勢を期待します。</p> |

